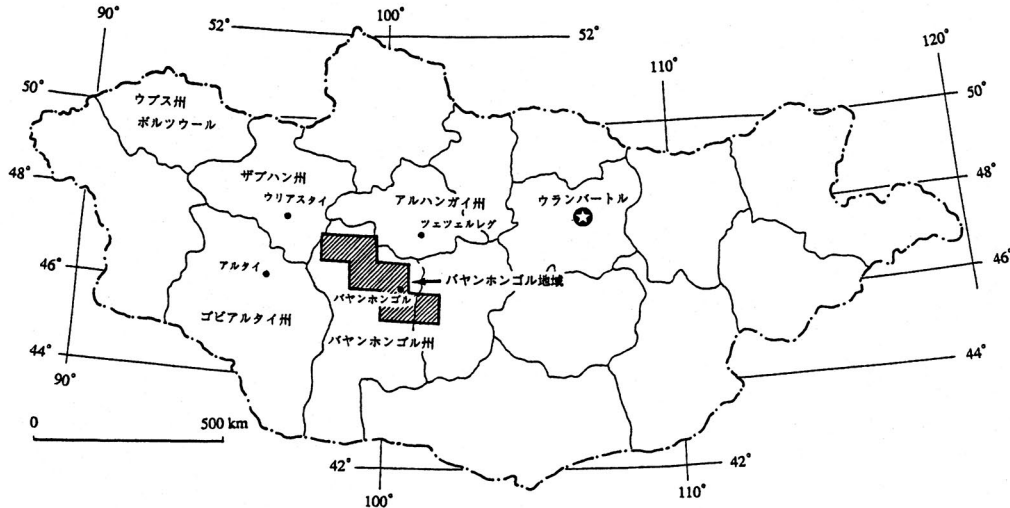


1:200,000 Digital Geological Map of Mongolia
L-47-XVI

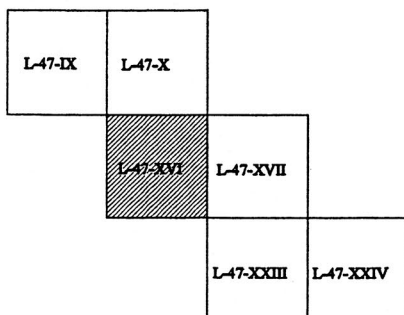
20万分の1モンゴル数値地質図
L-47-XVI



日本の5万分の1地質図に相当するモンゴルの基本的地質図は20万分の1地質図である。この縮尺の地質図も含め、モンゴルの地質図のごく一部が旧ソ連によって印刷されたことがあるだけでモンゴル国内では過去に地質図が印刷・出版されたことがない。地質調査によって作成された地質図は、手書きの原図が1部存在するだけである。従って、ここに登録された地質図は、数値化された地質図として最初のものであると同時に、カラープリントとして多数の部数が発行されたものとしてもモンゴル最初のものである。

この地質図は、国際協力事業団（JICA）のプロジェクト方式技術協力「モンゴル地質鉱物資源研究所プロジェクト」（1994～1999）の中で、日本の地質調査所とモンゴル地質調査所及びそれに係わる多数の関係者の現地調査、資料収集の努力によって作られたものである。このプロジェクトでは、フィールド調査に係わる技術協力は、モンゴル中部のバヤンホンゴル地域において地質調査と鉱物資源探査を実施する中で行われた。その成果のひとつとしてとりまとめられたのが20万分の1数値化地質図6シートと6シートを総括した50万分の1数値化地質図である。ここに登録されたものはそのうちの1シート（L-47-XVI）である。

L-47-XVI



地質図L-47-XVIの地域には、モンゴル高原を広く被う沖・洪積層の他、先カンブリア紀から古第三紀までの堆積岩類変成岩類、花崗岩類、火山岩類など多彩な岩石が分布する。この図においても、北西-南東方向の地質構造帯が認められるが、最も北側のハンガイ帯は地域の外で、残りのザグ帯、バヤンホンゴル帯、ブルドゴル帯、バイドラグ帯の4帯が分布する。図の北東部には主としてオフィオライトからなるバヤンホンゴル帯が認められ、図中央部より南西部には広い範囲に渡ってブルドゴル帯の堆積岩類やバイドラグ帯の始生代～原生代変成岩類及び古生代二疊紀の花崗岩類が分布している。なお、地質の詳細については、50万分の1モンゴル数値地質図（バヤンホンゴル地域）を参照。